特集 2

財政再建とこれからの社会資本整備

視座 2

日本の財政は、言われるほど危機的状況にはない。公共投資による社会資本整備を拡大して、バランスのとれた財政再建をめざすべきだ。

山家悠紀夫（やんべ）

（第一勧銀総合研究所専務理事）

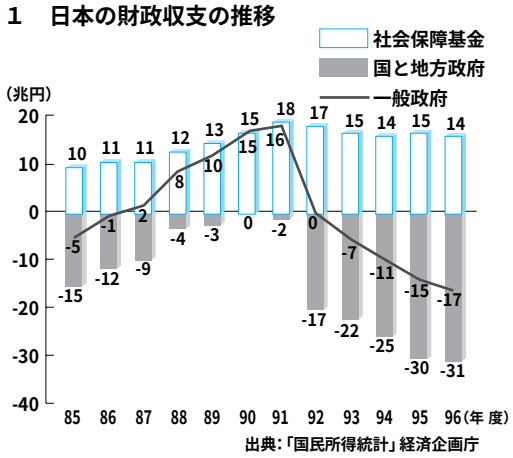
1940年愛媛県生まれ。神戸大学経済学部卒業後、64年に第一銀行（現第一勧業銀行）に入行。支店勤務、調査部長を経て、91年に第一勧銀総合研究所常務理事。94年より専務理事。著書に「偽りの危機　本物の危機」（東洋経済新報社）、監修書に「徹底予測'98 90分で読む日本経済」（東洋経済新報社）等がある。

日本政府の純債務は96年末で77兆円
日本財政状況の現在

財政赤字ということが、問題になっている。今、日本の財政赤字がどういう状況にあるのか、それは本当に危機的な状況にあるのだろうか。

年々の財政収支の動きを見ると、90年から91年のバブルの最盛期には税収も多く、10兆円を超える財政黒字を出していたが、景気の悪化とともに税収が落ち、一方で景気対策のために公共事業を増やし、減税を行ったことから、赤字が拡大し、96年度では20兆円を超える赤字というのが現状だ。

＊1　日本の財政収支の推移



出典：「国民所得統計」経済企画庁

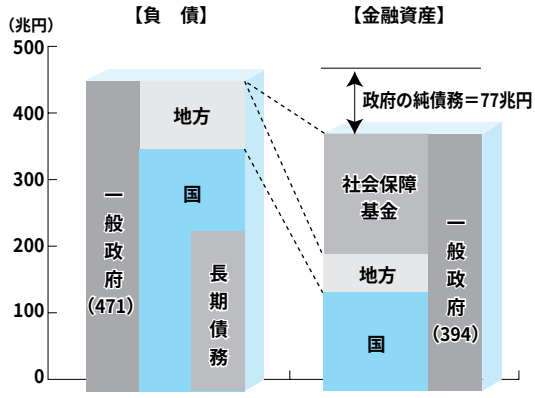
（グラフの見方）
折れ線グラフは政府部門の収支を表す。グラフの0より上の部分は黒字、下の部分は赤字を示しており、96年度の場合、社会保障基金（棒グラフの白い部分）は約10兆円の黒字だが、それを除いた国と地方政府の合計（棒グラフの黒い部分）は、約30兆円の赤字のため、全体では約20兆円の赤字（折れ線）となっている。
なお、90年度に黒い部分がないのは、国と地方政府の収支が±0であったことを表している。

＊2　社会保障基金

社会保障基金の中心は年金会計で、勤労者（企業もその一部を負担）が政府に納めた保険料を管理し、対象者への年金給付を行っている。現在のところ、納付額の方が多く、毎年10兆円を超える黒字となっている。

これを詳しく見ると、**社会保障基金**を除いた、国と地方の会計は30兆円を超える赤字になっている。この赤字は国債や地方債の発行や、銀行等から借り入れをする等でまかなわれている。一方、社会保障基金の主だったものは年金の会計で、毎年10兆円を超える黒字を基金として積み上げている。国と地方の財政赤字はどんどん膨らむが、社会保障基金は資産がどんどん増えていくという、両立てで日本の財政は動いている。それを差し引きすると20兆円を超える赤字

＊4　政府の債務・純債務残高



出典：「国民所得統計」経済企画庁

（グラフの見方）
国の金融資産としては、20兆円に上る外貨準備金や国債支払いのための積み立て金等がある。
また、地方自治体も各種の基金や財政悪化に備えての調整資金を積み立てている。